

伊勢の **今** を伝える

ISEBITO NEWS

秋号

第4号

いせびとニュース

●発行 伊勢文化舎 伊勢市観光協会
おかげ参り推進委員会
●発行部数 10万部
●企画・編集 伊勢文化舎
〒516-0016 三重県伊勢市神田久志本町1474-3
TEL (0596)23-5166 FAX (0596) 23-5241
E-mail otayori@isebito.com

4



黄金の穂波のなかで、 古式ゆかしく 拔穂祭

秋風わたる神田で、
たわわに実った稲穂の収穫。
大神様に新米を、
ご飯で、お餅で、御酒で、
お召し上がり頂くために――。



遷宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

神宮神田で拔穂祭 撮影/阪本博文

神田で拔穂祭

神宮神田が一面の黄金色になる九月、拔穂祭が行われる。今年の新米を神嘗祭(十月)で神様に召し上がりいただくために行う収穫の神事だ。

秋晴れのもと、稲田に囲まれた祭場には緑濃い穂が立てられ、白い浄衣の神職、黄の装束の作長たち(神田の職員)二十人ほどによって豊かな稔りに感謝する神事が行われる。そのあと、いよいよ稲の刈入れだ。神職より授けられた忌鎌で作丁たちが稲を刈り、手作業で穂を抜きとり、稲穂のみを束ねていく。『拔穂』は、鎌などがなかった大昔に穂だけを抜いて収穫した名残と思われる。

古来、日本は瑞穂の国といわれ、神宮の祭りには稲作にちなむものが多い。伊勢市楠部町にあるこの神田でも、春四月、神田下種祭で稲種を蒔き、五月には御田植始で早苗を植える。内宮と外宮でも天候が順調であるようにと風日祈宮で二度にわたり祭りを行って、無事に稔りの秋を迎えたところなのだ。

拔穂は神田のほとりで数日間乾燥させたあと、内宮の御稲御倉に百五十束、外宮の忌火屋殿に百八束を奉納する。三節祭に神様の前に供えるときは、昔ながらに糊すり具で精米し、ご飯、お餅、お酒に調理してお供えされる。

●問い合わせ 神宮司庁 広報課
0596・24・1111

- 主な内容
- 2・3面 遷宮への道(四)
- 4面 山田工作場で木造りするむ
- 5面 「せんくう館」情報
- 6・7面 おかげの国をめぐる(七)八
- 8面 いせびと歳時記

伊勢神宮の山田工作場で 社殿の木造り、着々とすすむ

社殿の造営

いよいよ来年は、**立柱祭**——。
宮大工、萱葺職人たちが働く山田工作場は、
爽やかな活気にみちている。

内宮・外宮の造営とも 山田工作場で

豊受大神宮(外宮)の神域と森をへだてて、広々とした山田工作場がある。広さ八・八畝、伊勢神宮の宮大工や萱葺職人たちが約百四十人が仕事にいそむ作業場だ。

明治以来、社殿の造営は、内宮は宇治工作場、外宮は山田工作場と分かれていたが、今回初めて統合され、山田工作場ですすめられている。

域内には、丸太を浮かべた大きな貯木池がある。木曾で伐り出された遷宮のご用材は、この池で三〜五年をかけてじっくりと油脂を落とし、その後、樹皮を取り除かれ、墨掛け(註1)ののち製材され、

部材となっている。

今、その部材は宮大工たちの手によって一つひとつに丁寧な最終仕上げが施されているところだ。

今回、公開取材の機会を得て、宮大工たちの仕事ぶりを間近に見ることができた。

立柱祭、 上棟祭をめざして

朝、八時半。白い上下の作業員たちが工作場の広場に集まる。お祓いと御塩で身を清め、祝詞奏上ののち、正殿に向ってそろって拝礼する。こうして、神様の社殿づくりにあずかる決意を新たに、一日が始まる。

宮大工たちは、現在総勢五十九人。内宮と外宮それぞれに四班ずつの作業班にわかれ、社殿ごとに作業をすすめていた。

外宮正殿を造るのは第二作業班だ。作業場に入ると、天井の高い大空間がすがすがしいヒノキの芳香に満ちみちている。さまざまな部材のヒノキ特有の白い木肌は目を見張る美しさだ。

「これは、棟持柱ですよ」とかたわらの宮大工。今まさに最後の磨



宮大工は細部にも心と技をつくす。



鯉木を刻む宮大工。山田工作場で働く宮大工は、二十代から六十代と年齢の幅が広い。今回の二十代、三十代の若手が、二十年後、次の式年遷宮では牽引力となる。



宮大工の道具。鉋(かんな)だけでも、大きいものからミニサイズまで、形状もいろいろ、使い勝手良いように手づくりもされる。

明治13年(1880)、明治天皇の御聖断を仰ぎ、伊勢神宮の遷拜所として建てられたのが「東京皇大神宮遷拜殿」、いまの東京大神宮です。皇室の御祖神である天照大御神をまつり、国民の総氏神として仰がれる伊勢神宮(内宮)の御神徳を皇都東京にあまねく宣布し、都民の心のよりどころになるようにとの願いから創建され130年の歳月が流れました。「東京のお伊勢さま」東京大神宮は、いまも伊勢神宮と都民の心を結んでおります。

10月17日(月)11時 秋季大祭斎行
伊勢神宮の神嘗祭にあわせて大祭を行い、皇室の弥栄と国家の隆昌、国民の幸福を祈願します。



東京のお伊勢さま



東京大神宮

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-4-1
電話(03)3262-3566 FAX(03)3261-4147
http://www.tokyodaijingu.or.jp/
JR総武線、地下鉄東西線・有楽町線・南北線・大江戸線
「飯田橋駅」徒歩5分

遷宮の経験ある棟梁のもとで 若手宮大工が育つ

熟練の棟梁のもとで

八つの作業班を率いるのは、幾たびか遷宮を経験した熟練の棟梁たちだ。

「神殿とほかの大工仕事との違いは、そこからは誰の目にも見えない組み手の溝や柄穴の中まで鉋や鑿で美しく仕上げること」という。

部材の仕上げを終えると、次は立柱祭までに屋内での仮組み、と気を抜けない作業が続いている。

また、遷宮では神様を祀る神殿だけでなく、付属する多数の建造物も新築される。たとえば、内宮正殿の御垣内には、正殿をはじめとし、東宝殿、西宝殿、四丈殿、五重の垣根及御門、南・北宿衛屋、四方の蕃塀と大小さまざまな建築物がある。仕事量は膨大だ。



遷宮を経験した棟梁の存在は大い。

遷宮への道 4 社殿の造営

そのために、この時期はかなりの数の宮大工を全国から起用している。技で勝負するかれらを率いて班のチームワークを固めるのも棟梁の手腕だ。

一方、二十年後の遷宮を見据えて、二十代、三十代の若手に技と心を伝えねばならない。若手は各班にバランスよく配置され、切組作業をはじめ、難しい墨付けにいたるまで、棟梁から直に学べるよう配



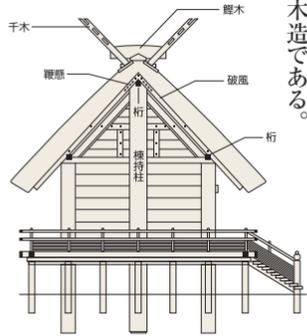
(上)神殿はだれの目にも触れない組み手の溝や柄穴の中まで美しく仕上げられる。(下)墨掛けのすんだご用材。

【註1】墨掛け
用材の木口(断面)や側面に図面通りの木取りを墨で記入する作業を墨掛けという。一本の用材から無駄なく部材をとるためには、墨掛けが重要な意味をもつため、棟梁や熟練の宮大工が行う。これによって、約一万本のご用材から約八万点以上の部材を切り出す。



慮されているという。二年後、平成二十五年に遷宮が行われるのは内宮と外宮の正宮、それに二つの別宮(荒祭宮と多賀宮)だ。

それに先立って、来春から立柱祭、上棟祭、檐付祭など、五つの重要な祭が行われる。その神事に向けて、各作業場には緊張感の中にもさわやかな活気が満ちみちている。



平成24年に行われる遷宮祭(日付は前回遷宮時)

- 立柱祭…正殿の柱をたてる祭。皇大神宮(内宮)は三月四日 豊受大神宮(外宮)は三月六日。
- 御形祭…正殿の東西の妻の御形短柱に御形(御鏡形)をうがつ祭で立柱祭の午後におこなわれる。
- 上棟祭…正殿の棟木を上げる祭。皇大神宮は三月二十六日 豊受大神宮は三月二十八日
- 檐付祭…正殿の屋根に萱を葺き始める祭。皇大神宮は五月二十三日 豊受大神宮は五月二十五日
- 莞祭…正殿の屋根の萱を葺き終わったのち、莞覆の金物を打つ祭。皇大神宮は七月二十一日 豊受大神宮は七月二十三日



立柱祭

萱葺職人たちが全国から

山田工作場の敷地には、屋根を葺くための萱を乾燥保存しておく専用の萱小屋が四棟ある。萱は来年の檐付祭を前に、計画通りにほぼ満杯の状態だ。度会町にある神宮の萱場で冬ごとに刈り取られ、八年かけて備蓄されてきたものだ。

遷宮で新しく葺き替えられる萱屋根は思いのほか多く、四十棟近くになる。それに必要とされる萱は、二万三千束。一束は一斗二十枚の縄で結わえる量で、刈り取ったばかりの萱の重さで四十キロ近い。

萱葺職人たちが働く作業小屋では、全国からあつまった職人たちが交えて、萱の選別や軒下を美しく整える蛇腹編みなど、諸作業が追い込み段階にきている。

長野県からきた松沢 敬さん(69)は、この道五十年のベテランだ。



(右)長野からの松沢 敬さんは、この道五十年の萱葺き職人だ。(左)萱屋根の軒下周囲を美しく補強する萱の蛇腹編み。

見よ、遊ぶ、味わう…
平成のお伊勢参りを体験しに
いっぺんきておくれない。

伊勢 内宮前
おかげ横丁
伊勢市宇治中之切町52番地
☎0596-23-8838(総合案内)
http://www.okageyokocho.co.jp/

ゆとりとやすらぎの宿
神宮会館
(財)伊勢神宮崇敬会

内宮に一番近い宿・歩いて5分
どなたでもご利用いただけます

〒516-0025 伊勢市宇治中之切町152
TEL 0596-22-0001 FAX 0596-22-1517
http://www.jingukaikan.jp

早朝参拝のご案内をしております。

式年遷宮
記念

せんぐう館

来春、四月七日に開館！

外宮の勾玉池畔に建築中の「せんぐう館」は、いよいよ来春四月七日に開館することとなった。日本の心、木の文化、伝統工芸の美と技を伝える神宮の式年遷宮——、その未来への継承をめざす新しい文化施設の誕生である。近づく第六十二回式年遷宮の記念事業としてこのプロジェクトを企画推進する神宮司庁総合企画室の小堀邦夫さんに、注目の展示について話をうかがった。



小堀邦夫(こほりくに)氏
プロフィール
伊勢神宮禰宜、神宮司庁総合企画室長兼営繕部長。
著書に詩集「魂の原郷」(PHP研究所)、「伊勢神宮」(保育社カラーブックス)、「伊勢神宮のこころ、式年遷宮の意味」(淡交社)ほか。



せんぐう館(外観イメージ)／四季折々に花が咲き、野鳥が飛来する勾玉池は、外宮のオアシスのような存在だ。せんぐう館に隣接する休憩所はもとより、せんぐう館の内部にも池を見ながらくつろげる空間が設計されている。

- せんぐう館(伊勢市豊川町)
- 開館時間／9:00～16:30(入場は16:00まで)
 - 休館日／第4次曜日(但し国民の祝日及び休日に当たる場合は翌日)
 - 観覧の所要時間／約30分(館内バリアフリー)
 - 入場料／おとな300円 小中学生100円



外宮正殿側面原寸再現

勾玉池のほとりに 千三百年の時を想い 憩う館

外宮の勾玉池に面して新築される「せんぐう館」と休憩所は鉤の手に連なっている。休憩所は、四季折々の池の風景を楽しみながら腰をおろして休める憩いの場となる。

「内宮には参集殿がありますが、外宮には参拝者にお休みたいだく場所がなかったのが、長年の気がかりでした」

小堀さんによると、屋外はもちろん館内にもゆつたりと憩えるスペースが設けられるという。

せんぐう館に入ると、エントランス奥には大きな御屏がある。御屏は

四重の御垣に囲まれた正殿の正面にあり、参拝しても通常は目にできないものだが…。

「この御屏は、昭和四十八年の式年遷宮で撤下された外宮正殿のもので、木の文化といわれる伊勢神宮の造営を象徴するものとして、ヒノキの一枚板による御屏をご覧いただくこととしました」

エントランスにつづく「遷宮シアター」では、二〇〇インチの大画面に、豊かな自然を背景に行われる神宮の祭、式年遷宮の諸祭や行事、伝統工芸の粋をつくす御装束神宝などが美しく映し出される。

次は「瑞穂の国」へ。瑞穂の国とは、いつまでもなく日本国のこと。わが国の精神文化に通底するのは、稲作。その守護神である豊受大神(外

宮祭神)の存在が身近に感じられる展示だ。

浄間の中、遷御の列が 外宮の杜をすすみ 総檜造り(原寸大)の正殿へ

展示室を進むと、遷宮のクライマックスである遷御の夜の祭列が六分のスケールで細やかに再現されている。むかうのは外宮正殿だ。

仰ぎみると、千木、鯉木も真新しい外宮正殿側面が、吹き抜けの大空間に再現されている。

「千三百年の歳月を超えて伝えられてきた唯一神明造ですが、その真の美しさ、式年遷宮の意義を、言葉で介さず、そのものが直に伝えてくれることと思います」

原寸大(高さ13m)の神殿側面を

大祭の真髓を説く

小堀邦夫氏の近著「伊勢神宮のこころ、式年遷宮の意味」は、学究的な神職である著者による遷宮へのいざないが、美しい文体でわかりやすく解かれている。たとえば、神宮が五十鈴川のほとりに鎮座して何代もの御代を経て、持統天皇の代に初めての式年遷宮が行われるのだが、それはなぜなのか。その意味するものは、等々。

諸々の神事の記述も、現職の神職ならではの体験と視点で詳細に語られており、興味深い。神宮の用語は難読のものが多く、総ルビであるのも、著者の心配りが感じられる。

また、何気なく使っている言葉の語源にさかのぼり、思いがけない日本語の世界へ誘う書としても興味つきないものがある。



小堀邦夫著
「伊勢神宮のこころ、式年遷宮の意味」(淡交社)
定価2,310円(税込)
県内の書店で販売中

造営した原木は、木曾から取り寄せた樹齢三百年のもの。神宮宮大工のOBたちが熟練の技をつくしたという。ほかにも、御装束神宝に関する展示、神宮に関する資料検索室などもあるが、詳細は開館後のお楽しみとしよう。

伊勢は、内宮の宇治と外宮の山田が賑わいを競い合って発展してきた町だ。参宮は、まず外宮に参り、次いで内宮へ足を運ぶものとされ、参拝者数もほぼ同数の時代が昭和三十年代までつづいた。参拝者が内宮に集中している現状からは想像し難いことだが…。

「せんぐう館の開館を一つの契機として、外宮および周辺の町(山田)に本来の活気がよみがえることを願っています」

山田らしい門前町の活気は、目先の小商いではもどらない。地域の活性化は町の文化水準が上がるらないと根本的な解決にはならないのではないかと小堀さんはいう。時間をかけ、根気よく、町の記憶を共有し、精神文化を育てることが町全体を底上げし、地域力になると。神職であり、詩人でもある小堀さんならではの直言である。

秋のおいしいハイキング 期間 10月2日～12月10日[全6回]

- ◇10月 2日(日) 答志島コース
- ◇10月16日(日) 岩倉・安楽島コース
- ◇10月29日(土) 青峯山正福寺コース
- ◇11月11日(金) 菅島コース
- ◇11月20日(日) 浦村コース
- ◇12月10日(土) 鳥羽三山コース

問い合わせ TEL (0599)25-3019



美しく国を ゆく

伊勢神宮とゆかりの地
鳥羽へ

お泊まりは鳥羽へ 鳥羽市観光協会

鳥羽市大明東町1-7 電話 0599-25-3019
http://www.toba.gr.jp/



鳥羽温泉郷
TOBA ONSEN-GO

鳥羽市温泉振興会
〒517-0022 鳥羽市大明東町1-7 TEL 0599-25-3019 FAX 0599-25-6358 http://www.toba-onsen.com E-mail info@toba-onsen.com

海の恵み、
心ゆくまで贅沢に



遷宮入門 その一

遷宮の歴史(上)

第六十二回式年遷宮(平成二十五年秋)を控え、神宮では着々と準備が進められている。

千三百年の歴史を持つこの大祭は、

そもそも、いつ、誰によって、

何のためにはじめられたのだろうか。

今回・次回は、式年遷宮の歴史について紹介する。

前半の今回は、その始まりから

戦国時代にいたるまで――。

遷宮の始まり

二十一年に一度社殿を建て替える式年遷宮の始まりは、今から一三〇〇年以上前の第四十一代



「伊勢御遷宮之圖」(神宮徴古館蔵)

用語解説

○儀式帳【ぎしきちょう】

神宮の祭神、鎮座、儀式、遷宮など全般にわたって詳細を記録した現存する最古の書籍。『皇太神宮儀式帳』と外宮の『止由気宮儀式帳』の二巻がある。

○仮殿遷宮【かりどのせんぐう】(かりでんせんぐう)

式年遷宮以外に二通りの遷宮がある。火災などの非常事態により御正殿を式年以外に造営することを臨時遷宮という。

○慶光院上人【けいこういんしょうにん】

戦国時代、中断していた式年遷宮の復興に功績のあった尼僧たちの敬称。慶光院は三代清順が後奈良天皇から賜った称号で、遷宮上人または宇治上人とも称される。

遷宮トピックス

御白石持へ向けて、奉獻本部結成!

平成25年の第62回神宮式年遷宮を控え、「お白石持行事」を取りしきる御白石奉獻本部の結成式が、今年2月11日に伊勢神宮内宮の参集殿で開かれ、約200名が参加した。



神宮の鷹司尚武大宮司から、本部長である鈴木健一伊勢市長へ本部の看板が手渡された。

「儀式帳」は神宮から朝廷に提

出され、「延喜式」を編纂する資

料となりました。

寛正三年(一四六二)の遷宮から、

およそ一三〇年間中断します。

国家による正式な式年遷宮を

正遷宮といい、それが行えなかつたので仮殿遷宮という臨時措置が

数回繰り返されましたが、とうとう

社殿は悲惨な状況となりました。

そのような状況を憂えた多くの

人の中から、後に慶光院上人と呼

ばれる尼僧達が現れ、神宮の状況

を世に広く訴えました。その声は

織田信長や豊臣秀吉などの実力者

の耳にも達し、世の落ち着きと共に

式年遷宮復興の兆しも見え始め

ます。最終的には徳川幕府の助力

を得て、式年遷宮は復興されます。

式年遷宮は国が平和であるから

こそ実行可能なのです。遷宮こと

に二十年の平和を積み重ねると考

えると、現在も遷宮が継続されて

いる意義は更に深いものがありま

す。

文〓神宮司庁 石垣仁久いしがきじんきゅう

神宮権禰宣 神宮司庁文化部主幹 神宮

司庁教学課研究員。

昭和37年 宮城県仙台市生まれ。國學院大

学大学院文学研究科博士課程前期修了。

また、歴史書に式年遷宮が始め

て見えるのは「続日本後紀」で、

仁明天皇の嘉祥二年(八四九)に

神宮に神宝を奉獻した記事があり、

そこには「これは二十年に一度奉

宮は永享六年(一四三四)、内宮は

いかに完璧な制度であつても、

数世紀にわたって存続するものは

多くはありません。制度崩壊の主

要因は、根底となる思想と、経済

的根拠の変化にあります。式年遷

宮は一三〇〇年にわたって継続す

る世界にも比類のない伝統ですが、

中断の危機もありました。

戦国時代、世の荒廢に伴つて外

宮は永享六年(一四三四)、内宮は

寛正三年(一四六二)の遷宮から、

およそ一三〇年間中断します。

国家による正式な式年遷宮を

正遷宮といい、それが行えなかつ

たので仮殿遷宮という臨時措置が

数回繰り返されましたが、とうとう

社殿は悲惨な状況となりました。

そのような状況を憂えた多くの

人の中から、後に慶光院上人と呼

ばれる尼僧達が現れ、神宮の状況

を世に広く訴えました。その声は

織田信長や豊臣秀吉などの実力者

の耳にも達し、世の落ち着きと共に

式年遷宮復興の兆しも見え始め

ます。最終的には徳川幕府の助力

を得て、式年遷宮は復興されます。

式年遷宮は国が平和であるから

こそ実行可能なのです。遷宮こと

に二十年の平和を積み重ねると考

えると、現在も遷宮が継続されて

いる意義は更に深いものがありま

す。

文〓神宮司庁 石垣仁久いしがきじんきゅう

神宮権禰宣 神宮司庁文化部主幹 神宮

司庁教学課研究員。

昭和37年 宮城県仙台市生まれ。國學院大

学大学院文学研究科博士課程前期修了。

また、歴史書に式年遷宮が始め

て見えるのは「続日本後紀」で、

仁明天皇の嘉祥二年(八四九)に

神宮に神宝を奉獻した記事があり、

そこには「これは二十年に一度奉

宮は永享六年(一四三四)、内宮は

寛正三年(一四六二)の遷宮から、

およそ一三〇年間中断します。

国家による正式な式年遷宮を

正遷宮といい、それが行えなかつ

たので仮殿遷宮という臨時措置が

数回繰り返されましたが、とうとう

社殿は悲惨な状況となりました。

そのような状況を憂えた多くの

人の中から、後に慶光院上人と呼

ばれる尼僧達が現れ、神宮の状況

を世に広く訴えました。その声は

織田信長や豊臣秀吉などの実力者

の耳にも達し、世の落ち着きと共に

式年遷宮復興の兆しも見え始め

ます。最終的には徳川幕府の助力

を得て、式年遷宮は復興されます。

式年遷宮は国が平和であるから

こそ実行可能なのです。遷宮こと

に二十年の平和を積み重ねると考

えると、現在も遷宮が継続されて

いる意義は更に深いものがありま

す。

文〓神宮司庁 石垣仁久いしがきじんきゅう

神宮権禰宣 神宮司庁文化部主幹 神宮

司庁教学課研究員。

昭和37年 宮城県仙台市生まれ。國學院大

学大学院文学研究科博士課程前期修了。

また、歴史書に式年遷宮が始め

て見えるのは「続日本後紀」で、

仁明天皇の嘉祥二年(八四九)に

神宮に神宝を奉獻した記事があり、

そこには「これは二十年に一度奉

宮は永享六年(一四三四)、内宮は

寛正三年(一四六二)の遷宮から、

およそ一三〇年間中断します。

国家による正式な式年遷宮を

正遷宮といい、それが行えなかつ

たので仮殿遷宮という臨時措置が

数回繰り返されましたが、とうとう

社殿は悲惨な状況となりました。

そのような状況を憂えた多くの

人の中から、後に慶光院上人と呼

ばれる尼僧達が現れ、神宮の状況

を世に広く訴えました。その声は

織田信長や豊臣秀吉などの実力者

の耳にも達し、世の落ち着きと共に

式年遷宮復興の兆しも見え始め

ます。最終的には徳川幕府の助力

を得て、式年遷宮は復興されます。

式年遷宮は国が平和であるから

こそ実行可能なのです。遷宮こと

に二十年の平和を積み重ねると考

えると、現在も遷宮が継続されて

いる意義は更に深いものがありま

す。

文〓神宮司庁 石垣仁久いしがきじんきゅう

神宮権禰宣 神宮司庁文化部主幹 神宮

司庁教学課研究員。

昭和37年 宮城県仙台市生まれ。國學院大

学大学院文学研究科博士課程前期修了。

また、歴史書に式年遷宮が始め

て見えるのは「続日本後紀」で、

仁明天皇の嘉祥二年(八四九)に

神宮に神宝を奉獻した記事があり、

そこには「これは二十年に一度奉

宮は永享六年(一四三四)、内宮は

寛正三年(一四六二)の遷宮から、

およそ一三〇年間中断します。

国家による正式な式年遷宮を

正遷宮といい、それが行えなかつ

たので仮殿遷宮という臨時措置が

数回繰り返されましたが、とうとう

社殿は悲惨な状況となりました。

そのような状況を憂えた多くの

人の中から、後に慶光院上人と呼

ばれる尼僧達が現れ、神宮の状況

を世に広く訴えました。その声は

織田信長や豊臣秀吉などの実力者

の耳にも達し、世の落ち着きと共に

式年遷宮復興の兆しも見え始め

ます。最終的には徳川幕府の助力

を得て、式年遷宮は復興されます。

式年遷宮は国が平和であるから

こそ実行可能なのです。遷宮こと

に二十年の平和を積み重ねると考

えると、現在も遷宮が継続されて

いる意義は更に深いものがありま

す。

文〓神宮司庁 石垣仁久いしがきじんきゅう

神宮権禰宣 神宮司庁文化部主幹 神宮

司庁教学課研究員。

昭和37年 宮城県仙台市生まれ。國學院大

学大学院文学研究科博士課程前期修了。

また、歴史書に式年遷宮が始め

て見えるのは「続日本後紀」で、

仁明天皇の嘉祥二年(八四九)に

神宮に神宝を奉獻した記事があり、

そこには「これは二十年に一度奉

宮は永享六年(一四三四)、内宮は

寛正三年(一四六二)の遷宮から、

およそ一三〇年間中断します。

国家による正式な式年遷宮を

正遷宮といい、それが行えなかつ

たので仮殿遷宮という臨時措置が

数回繰り返されましたが、とうとう

社殿は悲惨な状況となりました。

そのような状況を憂えた多くの

人の中から、後に慶光院上人と呼

ばれる尼僧達が現れ、神宮の状況

を世に広く訴えました。その声は

織田信長や豊臣秀吉などの実力者

の耳にも達し、世の落ち着きと共に

式年遷宮復興の兆しも見え始め

ます。最終的には徳川幕府の助力

を得て、式年遷宮は復興されます。

式年遷宮は国が平和であるから

こそ実行可能なのです。遷宮こと

に二十年の平和を積み重ねると考

えると、現在も遷宮が継続されて

いる意義は更に深いものがありま

す。

文〓神宮司庁 石垣仁久いしがきじんきゅう

神宮権禰宣 神宮司庁文化部主幹 神宮

司庁教学課研究員。

昭和37年 宮城県仙台市生まれ。國學院大

学大学院文学研究科博士課程前期修了。

また、歴史書に式年遷宮が始め

て見えるのは「続日本後紀」で、

仁明天皇の嘉祥二年(八四九)に

神宮に神宝を奉獻した記事があり、

そこには「これは二十年に一度奉

宮は永享六年(一四三四)、内宮は

寛正三年(一四六二)の遷宮から、

およそ一三〇年間中断します。

国家による正式な式年遷宮を

正遷宮といい、それが行えなかつ

たので仮殿遷宮という臨時措置が

数回繰り返されましたが、とうとう

社殿は悲惨な状況となりました。

そのような状況を憂えた多くの

人の中から、後に慶光院上人と呼

ばれる尼僧達が現れ、神宮の状況

を世に広く訴えました。その声は

織田信長や豊臣秀吉などの実力者

の耳にも達し、世の落ち着きと共に

式年遷宮復興の兆しも見え始め

ます。最終的には徳川幕府の助力

を得て、式年遷宮は復興されます。

式年遷宮は国が平和であるから

こそ実行可能なのです。遷宮こと

に二十年の平和を積み重ねると考

えると、現在も遷宮が継続されて

いる意義は更に深いものがありま

12回シリーズ

おかげの国を

めぐろう！



伊勢・鳥羽・志摩——「おかげの国」。
川辺に、岬に、みどりの森に、
お伊勢さん百二十五社がたたずむところ。
照る日も降る日も、
おかげ参りで訪れた旅びとを迎えてきた町です。
今回は、田丸と大湊周辺をご案内します。

その七

田丸めぐり

米どころの秋の实りを感じながら
内宮神主・荒木田氏の本拠地に行く

13キロ
スタート
JR参宮線田丸駅
ゴール
JR参宮線田丸駅



田園の真ん中にある小社神社。

小高い田丸城址から見渡すと、
眼下にのどかな平野が広がる。か
つて内宮の世襲神主だった荒木田
氏が開拓し、本拠としていた地域
で、玉城町内にある十五の摂末社
は、全て内宮に所属する。
秋の田丸めぐりでは地元信仰
をも集める五つの社をめぐろう。
木造のレトロな田丸駅舎を出発

し、お伊勢参りの旅人が歩いた旧
街道へ。城下町だけあって、町名
や建物に歴史の名残りが感じられ
る。前方右手、町並みの中に狭田
国生神社の森が見えてくる。社名
の狭田は、外城田川の支流に挟ま
れた細長い田のこと。倭姫命が河
口の伊蘇宮（現・磯神社）から寒
川（現・外城田川）を遡られたとき、
農道から県道へ。歩道橋の交差
点で右に曲がると、車の多い道に
出る。廣泰寺のある宮古地区を歩
き、奈良波良神社へと向かう。享
保甲辰（二七二四）に紀州藩が建て
た禁殺生石がある。

勝田のふれあい農園を通り、鴨
下神社へ。ここは山の鴨神社か
らみると、山すその方であるため
「鴨下」と名付けられたとの説が
ある。この辺りの田野の水利灌漑
を司る守護神をまつる。
田宮寺のある集落を抜け、田園
地帯を歩く。秋に黄金色の田んぼ
は、春先には水を湛え早苗が植わ
り、そして初夏には緑の絨毯が広

おかげの国とは
伊勢志摩エリアは神宮の百二十五社が
点在する。おかげを感じる「おかげ
の国」。官民の組織「おかげ参り推進
委員会」が、おかげ参りのような旅の
提案に取り組んでいる。
0596・25・5151
（事務局 伊勢商工会議所）



入口の木札が125社の目印。狭田国生神社。



自然石の手足鉢のある奈良波良神社。



小高い丘にある坂手国生神社。

- お伊勢さん
125社とは
- 正宮(しょうぐう) 2社**
天照大神をまつる皇大神宮(内宮)と、豊受大神をまつる豊受大神宮(外宮)。
 - 別宮(べつぐう) 14社**
正宮の「わけみや」の意味をもち、正宮と関わり深い神をまつる格の高いお宮。式年遷宮も正宮に続いて行われる。
 - 摂社(せつしゃ) 43社**
927年の『延喜式神名帳』に所載されている神社。
 - 末社(まつしゃ) 24社**
804年の『延喜式神名帳』に記載されている神社。
 - 所管社(しょくかんしゃ) 42社**
正宮や別宮に関わり、水や酒、米、塩、麻、絹など衣食住をつかさどる神々が多くまつられている。



石垣が立派な田丸城跡。



庭の美しい廣泰寺。

速川比古命が迎え、「この地は畦
廣之狭田の国」と申し上げ、神田
を奉った功績により定められたと
いう。
外城田川沿いを川上へ向かい、
稲穂の揺れる田んぼを眺めながら
小社神社へ。遮るものがなく、遠
くからでもこもりと茂る森が見
える。この社叢には桜の木が多い。
内宮(皇大神宮)神主の荒木田氏が
開拓した当時、後に宇治に移り住
むまで、産土神として尊んだ宮で
ある。天保三年(一八三二)と刻ま
れた水盤が置かれている。
農道から県道へ。歩道橋の交差
点で右に曲がると、車の多い道に
出る。廣泰寺のある宮古地区を歩
き、奈良波良神社へと向かう。享
保甲辰(二七二四)に紀州藩が建て
た禁殺生石がある。

その左手高台に、坂手国生神社
がある。明治維新まで、この辺り
に皇大神宮の田上神田があり、米
を奉納していた。田丸めぐりの最
終のお社だが、これからゴールの
田丸駅までは、田丸城跡や旧街道
を歩こう。
みごとな石垣のある城跡は、外
堀は蓮の名所となり、富士見門も
保存されている。天守跡からは、
伊勢の山並みとどろかな平野の
眺めが眼前に広がる。米どころ玉
城の風景は、この一帯が神宮の神
田だったことを物語っている。

①狭田国生神社
さくくなりじんじや「内宮摂社」
祭神の速川比古命、速川比女命は外城
田川の川の神で、この狭田の沃野の灌
漑用水を司る。山末御魂は田丸山の
麓におられた土地の神。
②小社神社
おそしんじや「内宮末社」
産土神として鎮座していた高水上命が
祭神で、灌漑用水の神と伝えられる。
「雨の宮さん」と呼ばれ、日照りの折
には雨を祈願をしたといわれる。
③奈良波良神社
ならはらしんじや「内宮摂社」
祭神はこの地方の田野の守護神と伝え
られる。奈良原比女命。社名から、こ
の一角が植木の原野であったことが
推測できる。
④鴨下神社
かもしもんじや「内宮末社」
祭神は水利灌漑をつかさどる三柱の神
と伝えられる。石己呂和居命と鴨比古
命と鴨比賣命。勝田の田野の水利灌漑
を司る守護の神。

⑤坂手国生神社
さくくなりじんじや「内宮摂社」
祭神はこの地方の灌漑用の
水を守る高水上神。牛尾崎
池と道をはさむ、小高い丘
の坂のあたりにあり、社名
の由来といわれる。

http://www.iwatoya.co.jp

祝平成25年 第62回神宮式年遷宮

お多福とともに岩戸屋は
今も昔も内宮前

岩戸屋
TEL 0596-23-3188 FAX 28-1322

PEARL BOUTIQUE
TEL 0596-23-6750

百福者
TEL 0596-23-3236

生姜糖

頭の深呼吸に
来ませんか?

商売繁盛・出世開運
職務安全・出世開運
病気の病氣・ケガ
心の病氣・ケガ
学業向上
合格祈願
(入学・就職・資格・国家)
交通安全祈願
安産祈願
初宮詣・七五三

頭之守護神 知恵の大神
頭之宮 四方神社
0598-72-2316
http://www.koubenomiya.or.jp/

三重県度会郡大紀町大内山
●松阪よりJR線又は三重交通(南紀特急)
●大内山駅下車徒歩10分
●紀勢自動車道 紀勢大内山ICより尾鷲方面へ車で5分

その八

大湊・神社めぐり

約11キロ
スタート
伊勢市駅
ゴール
伊勢市駅

伊勢市内を流れる勢田川は、江戸から明治にかけて船参宮の人々や物資を運ぶ重要な川だった。流域には、大湊・神社・二軒茶屋・船江・河崎などの港町が発達した。このコースでは、かつての川の港、海の港の歴史を感じながら歩をすすめよう。

出発点の伊勢市駅(近鉄口)を出て、八間道路を北へ。少し遠回りになるが、勢田川沿いに河崎の町並みを眺めながら行こう。河崎は、勢田川の水運を利用し、江戸時代には大きな問屋街へと発展したまちだ。多くの参宮客の物資をまかっていたので、伊勢の台所と呼ばれていた。現在でも、川に並行に走る通り沿いに妻入の町家や商家の蔵が残り、伊勢らしい古い町並みを散策することができる。河崎からふたたび八間道路へ戻ると、住宅街の中にひととき繁る森と臈ヶ池があらわれる。そこが河



神社港を発着港として、かつての船参宮ルートが体験できる和船「みずぎ」が就航している。



原淵神社だ。さらに北へ、御園町へと進もう。田園を直進し、菅原道真ゆかりの臥竜梅で有名な新開地区へ。のどかな田園風景の中に河原神社がある。神社殿の後ろに大きな楠が生えており、手入れされた水鉢や生け垣が清々しい神社だ。

さらに直進すると小林の集落に入る。ここは、かつて江戸幕府の遠方奉行・山田奉行所が置かれていたところ。当時の奉行所の一部を再現した「山田奉行所記念館」があるので、ぜひ立ち寄ってみよう。

宮川の堤防道路に出ると、向かいに見えるのが大湊だ。大湊は造船のまち。湊橋からは何本もの巨大なクレーンが空へとのびている。次の志宝屋神社は、防波堤がぐるりとめぐり、いかにも河口らしい風景の中にある。



河原神社



河原淵神社

くどやがて神社港に着く。江戸から明治にかけて、伊勢の海の玄関口としてにぎわったこの港は、各地から神宮へ納められる品々が届き、船参宮客や神宮社殿のご用材も海路でこの港に入ったという。現在でも往時をしのぶ格子づくりの古い町並みや建物が残っている。港からやや街中に入った場所に最後の御食神社がある。古来、この港口から揚がった海産物の御料を神宮に調進する御饌の神をまつてきた神社だ。

神社港からは伊勢市駅前方面へバスが出ている。歩いて戻るなら、竹ヶ鼻から田尻を通って行くのが車の交通量が少なく、安全だ。

1 河原淵神社 かわらじんじゃ「外宮攝社 地元の氏神・船江上社などさまざまな神と並んで鎮座されている。祭神は水の守り神・澤姫命。

2 河原神社 かわらじんじゃ「外宮攝社 かわらじんじゃ「外宮攝社

3 毛理神社 もりじんじゃ「外宮攝社 河原神社の祭神・川神は、田地を守る神様。同座の毛理神社の祭神・木神は、ご神木を守っている。

4 志宝屋神社 しやうほうじや「外宮攝社 祭神は、鹽土老翁。地元では、みなとの明神さま、塩屋明神などと呼ばれる。祭神は、塩業、海路の守護神だが、安産の神として参拝する地元民も多い。

5 御食神社 みけじんじゃ「外宮攝社 祭神は水戸御饗部神。「倭姫命世紀」によると、驚取翁が倭姫命に清水を奉り、その功績を賞して水饗神社を定められたのがこの神社の起源とされる。境内にある「辰の井」がそのときの清水だと伝えられる。



御食神社の境内

おかげの国めぐりにおすすめ!

「おかげの国」をめぐるとは『お伊勢さん125社めぐり』を。歩きに便利なMAPや周辺の休憩地・土産物、伊勢神宮の知識など、旅に役立つ情報も盛りだくさん。

●三重県内の主要書店、観光施設ほかで発売中!
定価1260円
伊勢文化舎 ☎0596-23-5166

おかげ参道の 屏風でたどる伊勢参り

3 お杉とお玉

伊勢には昔「お杉お玉」という見せものがあつた。その様子は門脇俊一画伯の陶版屏風にも大きく描かれていると聞き「なんやそれは、おすぎとピー子なら知ってるが」と旅のおお玉さん。

お杉お玉は若いベッピンだったという。古くは元和二年(一六一六)の記録にあるそう、明治時代まで外宮と内宮の間である間の山(現在の尾上町)の坂道に出て三味線を引き、間の山節」という歌を唄い、参宮人に銭を投げてもらう大道芸人である。

往来する旅人は面白がって一文銭を彼女らの顔にかけて投げたが、三味のバチですべてはね返し当らない。西鶴や近松の小説や戯曲にもとりあげ大評判。伊勢といえば「お杉お玉」となる。はじめの頃は莫座の上であつたが、人気が出るに派手になり小屋掛けして遊女のごとく縮



おかげ参道入口。



哀調を帯びた「間の山節」を演奏する二人の女芸人

文・矢野憲
NPO法人五十鈴塾
塾長。四十年間神宮に奉職した元神宮欄長。神宮司庁文化部長。徴古館農業館館長などを歴任。著書に「伊勢神宮の衣食住」「般」「アワビ」「枕」「桶」など多数。



参道は両壁面に屏風絵が連なる。

あわび

伊勢志摩産のあわびを使った本物の熨斗袋

伊勢熨斗

先様の健康と長寿を祝う心を形にした伊勢熨斗。各種熨斗紙・熨斗袋・祝儀袋を取りそろえています。

◆本社 伊勢市上地町2691-13
電話0596・23・1281(代)
☎0120-00-0707

◆本店(外宮前) 伊勢市本町19-19
電話0596・23・3141(代)

◆参宮楽膳 伊勢市上地町2691-51
伊勢問屋センター前
電話0596・20・3958(代)

◆内宮前店 伊勢市宇治中へ切町87
電話0596・28・0081

E-mail info@sekiya.com
http://www.sekiya.com

海女の話を開きながら、海女小屋で新鮮な魚介に舌つつま

海女小屋はちまなかまど

漁場に近い海女小屋で、海の幸の採り手である海女達の話聞き、手焼きによる魚介をいただきます。

神話の時代から続く伊勢志摩の海女文化を伝えたい

ひょうきちや 兵吉屋

海女文化を提供する

〒517-0032 鳥羽市相差町1094番地
TEL 0599-33-6145 FAX 0599-33-7407

いせびと歳時記

初秋から冬にかけての伊勢志摩のまつり・イベント情報

9月

2日(金) 抜穂祭

●一面参照。
伊勢市桶部町、神宮神田 関神宮司庁
☎0596241111

5日(月) 夫婦岩大注連縄張神事

夫婦岩の大注連縄を張り替える神事。二見太鼓や木遣りが響くなか、参道から手送りで大注連縄を夫婦岩へと渡す。
伊勢市二見町、二見興玉神社
☎0596432020

10日(土)～11日(日) 神恩感謝日本太鼓祭

日本全国から太鼓打ちが集まり、郷土色豊かな共演をみせる。大太鼓を叩けるコーナーや、プロの指導による太鼓塾への参加。太鼓作り教室などの催しもいろいろ。
伊勢市、おかげ横丁周辺
☎0596238838

12日(月) 神宮観月会

古式ゆかしい神宮独特の月見の宴。月をめでる秀歌が冷泉流の作法で披露され、楽師たちによって雅楽が奉納される。
伊勢市、伊勢神宮内宮内宮神苑 関神宮司庁
☎0596241111

14日(水) わらじ祭

大わらじを海へ流して怪物を撃退した故事に基づく祭。17日(土)には、長さ31m幅12mのわらじが浜へ曳かれ、海へと流す「わらじ流し」が行われる。
志摩市大町、波切神社
☎0599720165
関波切神社(わらじ祭) ☎0599724279
関波切自治会(わらじ流し) ☎0599724279

15日(木) 守武祭・俳句会

室町時代の内宮神主であり俳諧の祖と称えられる荒木守武を顕彰する俳句大会。守武祭は守治神社で行われ、俳句会は修養団伊勢道場で行われる。
伊勢市、宇治神社、修養団伊勢道場
関伊祖守武顕彰会
☎0596208251(五十鈴館)



わらじ流し

15日(木)～16日(金) 安乘人形芝居

400年以上にわたり継承されている伝統芸能の人形芝居。地元の小中学生、保存会により上演される。国の重要無形民俗文化財。
志摩市阿児町、安乗神社 関安乗神社
☎0599473423



安乗人形芝居

17日(土)～29日(木) 来る福招き猫まつり

郷土玩具から現代作家の作品まで、全国からさまざまな招き猫が集まるイベント。販売のほか招き猫絵付け体験、スタンプラリーなども。
伊勢市、おかげ横丁 関おかげ横丁総合案内
☎0596238838

19日(月) 月夜見宮 秋季大祭

伊勢神宮外宮の別宮・月夜見宮の秋の大祭。奉賛行事等もあり、境内は終日にぎわう。
伊勢市、月夜見宮 関神宮司庁
☎0596241111

22日(木)～24日(土) 秋の神楽祭

11時より内宮神苑の特設舞台で神楽舞を一般公開(雨天の場合は内宮参集殿)。吟詩舞・能楽・野点席などが全国の名家名流により奉納される。期間中は神宮茶室も公開される。
伊勢市、伊勢神宮内宮 関神宮司庁
☎0596241111

1日(土) 御酒殿祭

神嘗祭にお供えする御酒がうるわしく醸成できるようお祈りする祭。
伊勢市、伊勢神宮内宮 関神宮司庁
☎0596241111

10月

2日(日) 志摩あわび王国まつり

志摩の特色をいかした特産品の販売や多彩なステージイベントを催す。飲食ブースもあり、よさこいやダンスなどで盛り上がる。
伊勢市、高柳商店街 関志摩あわび王国まつり実行委員会事務局(伊勢市市民交流課) ☎05962115549

5日(水) 御塩殿祭

神嘗祭をはじめ、すべての祭典にお供えする塩を焼き固める御塩殿の祭。あわせて日本の塩業の繁栄を祈る。
伊勢市二見町、御塩殿神社 関神宮司庁
☎0596241111

8日(土) 浜島大祭

実りの秋に感謝する宇氣比神社の例大祭。飾り付けられた町内には太鼓の音が流れ、威勢のいい舟神輿が練り歩く。
志摩市浜島町、宇氣比神社
☎05995330032

10日(月) 伊勢の伝統能楽まつり

450年の伝統を有する伊勢の伝統芸能一色能、通能、馬瀬狂言が披露される。
伊勢市、いせトピア
関伊勢の伝統の能楽を継承する会
☎0596256526(吉川真夫さん宅)

14日(金) 神御衣祭

内宮正宮と別宮の荒祭宮に和妙(絹)と荒妙(麻)の2種類の神御衣が縫い糸や針を添えて供えられる。
伊勢市、伊勢神宮内宮・荒祭宮 関神宮司庁
☎0596241111

15日(土)～25日(火) 神嘗祭

●詳細は下記参照。
伊勢市、伊勢神宮外宮・内宮ほか 関神宮司庁
☎0596241111

15日(土) 神嘗奉祝祭

●詳細は下記参照。
伊勢市、伊勢神宮外宮 関伊勢商工会議所
☎0596255151

15日(土) 初穂曳(陸曳)

奉曳車に新穀をのせて外宮に奉納する行事。
伊勢市内、伊勢神宮外宮 関伊勢商工会議所
☎0596255151

4日(金)～5日(土) 猿田彦神社 秋季例祭

みちひらきの神様・猿田彦大神をまつる神社の秋の例祭。
伊勢市、猿田彦神社 関猿田彦神社
☎0596222554

5日(土) 倭姫宮秋の例大祭

福引、甘酒、お神酒がふるまわれ、神楽の奉納や野点、書道展などが行われる。
伊勢市、倭姫宮 関神宮司庁
☎0596241111

5日(土)～6日(日) 秋の伊勢楽市

外宮参道に屋台が並び、伊勢の地場産品、工芸品が一堂に揃う。
伊勢市、伊勢神宮外宮周辺 関伊勢市観光協会
☎0596283705

7日(月) 片田稲荷神社 秋季大祭

「いなりまいり」として親しまれ、近郷より多くの参詣者でにぎわう。
志摩市志摩町、片田稲荷神社 関片田稲荷神社
☎0599852342



初穂曳

16日(日) 初穂曳(川曳)

初穂船に新穀をのせて内宮に奉納する行事。
伊勢市、五十鈴川浦田橋、伊勢神宮内宮 関伊勢商工会議所 ☎0596255151

21日(金) 金比羅宮大祭

賢島の鎮守として、鳥羽金刀比羅宮から分社した賢島金刀比羅宮。大護摩を焚き、火渡り行事が行われる。
志摩市阿児町、賢島 賢島金比羅宮
☎05994335391

22日(土) 真珠祭

真珠のもと・アコヤ貝の供養祭と、真珠養殖界の振興を祈願するイベント。ジャンボ真珠貝を乗せた船の海上パレードもある。
志摩市阿児町、賢島、円山公園周辺 関神明真珠養殖漁業協同組合
☎05994331010

28日(金)～29日(土) 伊勢ヨイ夜ナ

内宮前おはらい町界隈がロウソクの灯りでライトアップされる。
伊勢市、おはらい町周辺 関伊勢市観光事業課
☎0596215566

29日(土) 馬瀬狂言

かつて農家の長男に限って教えられたという狂言。出し物は120種を超え、全国的にも珍しい演目もある。県の無形民俗文化財。
伊勢市、馬瀬神社 関馬瀬狂言保存会
☎0596367577

11月

1日(木) 御酒殿祭

12月の月次祭の御酒が、うるわしく醸造されるようお祈りする。
伊勢市、伊勢神宮内宮 関神宮司庁
☎0596241111

15日(木)～25日(日) 月次祭

暦を二分する6月と12月に、皇室と国民の栄えを祈って行われる大祭。外宮、内宮をはじめ別宮以下すべての神社で行われる。
伊勢神宮(外宮・内宮ほか) 関神宮司庁
☎0596241111

16日(金) 桃符頒布祭

氏子総代らが松下社に集まり、「蘇民将来子孫家門」とかいた桃符(木札)を神前に供え、祈禱のあとこの日から一般に頒布する。
伊勢市二見町、松下社 関伊勢市二見町総合支所地域振興課
☎0596421111

23日(水) 二船祭

海士游女神社の例祭。地元の若者が2隻の船に分かれて乗り込み、その速さを競い合う。
志摩市国崎町、前の浜 関国崎町内会
☎0599337428



二船祭

23日(水) 二船祭

海士游女神社の例祭。地元の若者が2隻の船に分かれて乗り込み、その速さを競い合う。
志摩市国崎町、前の浜 関国崎町内会
☎0599337428

1日(木) 御酒殿祭

12月の月次祭の御酒が、うるわしく醸造されるようお祈りする。
伊勢市、伊勢神宮内宮 関神宮司庁
☎0596241111

15日(木)～25日(日) 月次祭

暦を二分する6月と12月に、皇室と国民の栄えを祈って行われる大祭。外宮、内宮をはじめ別宮以下すべての神社で行われる。
伊勢神宮(外宮・内宮ほか) 関神宮司庁
☎0596241111

16日(金) 桃符頒布祭

氏子総代らが松下社に集まり、「蘇民将来子孫家門」とかいた桃符(木札)を神前に供え、祈禱のあとこの日から一般に頒布する。
伊勢市二見町、松下社 関伊勢市二見町総合支所地域振興課
☎0596421111

23日(水) 二船祭

海士游女神社の例祭。地元の若者が2隻の船に分かれて乗り込み、その速さを競い合う。
志摩市国崎町、前の浜 関国崎町内会
☎0599337428

1日(木) 御酒殿祭

12月の月次祭の御酒が、うるわしく醸造されるようお祈りする。
伊勢市、伊勢神宮内宮 関神宮司庁
☎0596241111

15日(木)～25日(日) 月次祭

暦を二分する6月と12月に、皇室と国民の栄えを祈って行われる大祭。外宮、内宮をはじめ別宮以下すべての神社で行われる。
伊勢神宮(外宮・内宮ほか) 関神宮司庁
☎0596241111

16日(金) 桃符頒布祭

氏子総代らが松下社に集まり、「蘇民将来子孫家門」とかいた桃符(木札)を神前に供え、祈禱のあとこの日から一般に頒布する。
伊勢市二見町、松下社 関伊勢市二見町総合支所地域振興課
☎0596421111

23日(水) 二船祭

海士游女神社の例祭。地元の若者が2隻の船に分かれて乗り込み、その速さを競い合う。
志摩市国崎町、前の浜 関国崎町内会
☎0599337428

1日(木) 御酒殿祭

12月の月次祭の御酒が、うるわしく醸造されるようお祈りする。
伊勢市、伊勢神宮内宮 関神宮司庁
☎0596241111

15日(木)～25日(日) 月次祭

暦を二分する6月と12月に、皇室と国民の栄えを祈って行われる大祭。外宮、内宮をはじめ別宮以下すべての神社で行われる。
伊勢神宮(外宮・内宮ほか) 関神宮司庁
☎0596241111

伊勢の秋、神嘗祭を祝う

神宮の1年で最大の祭、神嘗祭。その年の新穀をお供えして神様の常若を祈り、豊穣に感謝する祭だ。この時期に合わせて、伊勢では神嘗祭を祝うさまざまな祭りやイベントが開かれる。

全国的まつりが一堂に

10月15日(土)に伊勢まつりの会場で行われる「神嘗奉祝祭」。日本三大民謡、三大盆踊り、三大パレードといわれる徳島の阿波踊り、山形の花笠踊り、沖繩のエイサー、岐阜の郡上おどり、富山の越中おわら風の盆、秋田の西馬首内(にしもない)盆踊り等、全国のお祭りが一同に集まるイベントだ。そのほか、参加団体ゆかりの特産品や地元の商品が集まる神嘗エンヤ市が開催される。

伊勢地域最大級の市民まつり

高柳商店街周辺から伊勢市駅周辺の県道鳥羽松阪線を会場に、伊勢音頭、神輿、太鼓、クラシックカーパレードが行われ、イベント広場では、よさこいソーラン、二見カエル踊り、大道芸などを披露。会場一帯では、地場産品の展示、販売なども行われる。10月15日(土)の夜には華やかなねぶたの運行や勇壮な手筒花火も披露される。

また、高柳商店街では「食のフェスタ」として、全国各地のB級グルメ屋台が集合。16日(日)には、伊勢市駅前イベント広場で第6回伊勢つ子ものしり王選手権が開催される。

※問合せ先は上記カレンダーに記載。

伊勢からの便り

昔は神様が新米を召し上げる神嘗祭、天皇陛下が召し上げる新嘗祭が済むまで国民は、新米を食べないのが当たり前でした。けじめのある生活は日本人の美意識でもありました。近年、稲刈り時期が早くなり、九月の声を聞くとスーパーには新米が並びますが、私の知人にはかつての慣いを守っている家族がいます。東北新潟と災害のつづいた今年、被災地への祈りを込めて新米を頂きたいと思えます。 発行人 中村 賢一 (伊勢文化舎代表)

伊勢音頭

宮後のねぶた

近鉄特急で伊勢・鳥羽・志摩へ♪ すべてセットのおトクなきっぷ

伊勢・鳥羽・志摩 “まわりゃんせ” スーパーパスポート

おとな 9,500円 4日間有効 小ども 5,200円

ゆったり往復! ゆきもかえりも近鉄特急で 近鉄発駅から伊勢志摩までの、往復乗車券+往復特急券(全席座席指定) たっぷり周遊! 伊勢志摩エリアでは、近鉄電車・特急、バス、船が何度でも乗り放題! ばっちり観光! 志摩スペイン村、鳥羽水族館、ミキモト真珠島など 28もの観光施設に 入場・入館OK!

オプション 伊勢志摩の観光に便利! 観光タクシー1台(4名まで)利用可能 上記価格に追加で5,300円

お求め 近鉄主要駅(伊勢中川駅以西・以北の特急券うりばのある駅)、阪神三宮駅、KNTツーリスト・近畿日本ツーリスト、JTB・日本旅行各グループほか主な旅行会社など

近鉄 近鉄 大阪(06)6771-3105 名古屋(052)561-1604